

陳 情	受 理 番 号	99	受 理 年 月 日	令和元年 7 月 24 日	付 託 委員会	都市建設 環境
件 名	沖縄都市モノレールに関する要請について					

沖縄都市モノレールに関する要請について

貴台におかれましては、沖縄の振興発展に御尽力されておられますこと心から敬意を表します。21世紀前半なかば、地域発展の新たな課題が多様に顕現しております折、ますますのご活躍を祈念申し上げます。

さて、私共は沖縄の都市交通の進展整備を期待し、特に公共交通機関としての「都市モノレール」の機能を重視して、調査研究・提案・啓蒙・整備要請等の活動をして参りました。沖縄の「都市モノレール」につきましては、ご存知の如く、五次に亘る振興計画推進の中、約3.5兆円の道路整備投資の一環として、近々供用開始の〈浦添ルート〉を含め約17キロメートルの路線が実現致しております。この「都市モノレール」は、本県における“戦後初”の定時性公共交通機関として、今やなくてはならない〈市民の足〉〈観光来訪者の移動手段〉、また、〈地域まちづくり〉の核ともなり、効果・便益は県民に定着したものとなっております。

しかしながら、中南部都市圏における陸上交通の現状は、地域面積の狭隘を基本的制約要因として、これまでの交通施設や運用面の整備進展の努力にもかかわらず、未だ十分な成果が得られていないのが実情です。宿年の交通渋滞は、新たな多様な交通ニーズの発生も加わり深刻さをみせております。また、バス交通環境改善の継続課題や、最近の「都市モノレール」の混雑の発生など、公共交通に関わる量的・質的な課題は重大です。

私共は、これらの都市交通課題の改善・解決に果たす「都市モノレール」という交通機関の役割とその導入効果を確信し、下記の要請を行うものであります。

要 請

道路交通と競合せずその渋滞緩和に貢献し、公共交通の定時性を確保して、市民生活と社会経済の発展に大きく寄与することが期待される「都市モノレール」路線の更なる整備延伸の計画検討を急ぐことが喫緊の課題と考えます。そのため早期の実現を図るべく御尽力頂けますようお願い申し上げます。

【上記要請の理由と期待される効果】

- 〔1〕 **鉄軌道交通の「復帰」を：**実質第5次の沖縄振興計画が展開される中、「復帰」も過去の記憶の印象がありますが、未だ「復帰」ならぬ社会インフラがあります。それが鉄軌道です。終戦時沖縄中南部には約50Kmの沖縄県営鉄道路線がありました（戦災消滅）。都市モノレールで17キロメートル回復しただけの現在です。
- 〔2〕 **交通渋滞の緩和軽減と転換：**連日ラッシュ時の、中南部都市圏の交通渋滞は全国有数の積年の問題です。積極的な幹線道路整備や都市道路整備も継続されてきましたが、都市域の狭隘を背景に、人口当たり・自動車台数当たりの道路延長の低劣な実態は、渋滞緩和・解決の困難さを示しています。道路交通と競合せず、道路交通からの転換が期待され、渋滞緩和に資する立体構造の「都市モノレール」の導入促進は重要です。
- 〔3〕 **地域発展の展開における新たな量的・質的交通ニーズ：**現在展開中の「21世紀ビジョン基本計画」が進行する今日、新たな発生・集中・分布を求める交通需要が現れています。それには、大規模ショッピングエリアの開発（北谷町・北中城村・浦添市等）、観光リゾート施設開発（本部町・恩納村・那覇圏等）、クルーズバースの整備（東海岸港湾地区・本部町等）、那覇空港の整備（新滑走路・ターミナルビル整備・空港立地企業の展開等）、MICE計画など、多く指摘できます。これらの交通需要の対応に「都市モノレール」網の整備は欠かせません。
- 〔4〕 **まちづくり・都市整備：**ゆいレールの小禄駅・県庁前駅・おもろまち駅、また、近々供用の浦添ルートのでだこ浦西駅などの示す「都市モノレール」駅の、まちづくり・都市整備へのインパクトには大きいものがあります。モノレール網整備は、中南部都市圏のコンパクトシティ化にも貢献が期待されます。
- 〔5〕 **公共交通シェアの拡大：**本県交通政策の要である「沖縄県交通体系基本計画」は、フィーダーネットワークの形成・運用の整備充実により、公共交通による乗客需要の負担シェアの拡大改善を図っています。「都市モノレール」の延伸とバス交通との結節の充実は、この改善に大きく貢献します。

以上